

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4690100021号		
法人名	有限会社 十匠		
事業所名	グループホーム うすき		
所在地	鹿児島市 宇宿2丁目 13番17号 (電話) 099-255-2835		
評価機関名	NPO自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年3月28日

【情報提供票より】(平成21年3月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12人, 非常勤 5人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有() 円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月8日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.3 歳	最低	66 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人腎愛会上山病院・福元歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはマンションや大型スーパーなどがある工業団地の中に立地している。グループホームを理解してもらえるように、広い敷地やホーム内にある地域交流室を地域住民に気軽に使っていただきたいと、地域住民に働きかけ交流に努めている。職員の緊密なチームワークのもとで、利用者の思いや意向を大切にサービスが提供されている。利用者職員は支えあい、利用者の特技を活かしその人らしく生活できるよう支援している。家族的で暖かい雰囲気のホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流について、立地条件など困難な事もあり、少しずつ努力している段階である。管理者・職員はいろいろなアイデアを考えており、改善に向けて取り組んでいく姿勢が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を理解して、サービスの改善や質向上に活かそうと努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、ホームの現状や行事・入居者の様子など報告し、出された意見を運営に反映させるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に行事や誕生会への参加を呼びかけ、家族の面会時に話す機会を作ったりして、不満や要望を聞く機会を設けている。意見はサービスの質向上に活かすよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して、地域との付き合いを実施したいと努めているが、工業団地内に立地しており、連携を図るのに苦心している。行事のときなどボランティアを受け入れたりして、できる事から少しずつ取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に地域密着型サービスとしての意義や役割を考慮し、職員が話し合って理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者に毛筆で書いてもらった理念を掲示したり、朝の申し送り時に理念を唱和するなど共有して、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入したり、行事のときなどボランティアを受け入れて、地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解して、サービスの改善や質の向上に活かそうと努めている。	○	管理者・職員全員で評価に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホームの現状や行事・入居者の様子など報告し、出された意見を運営に反映させるように取り組んでいる		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新申請などで市役所に出向いた時などに、相談や助言をもらっている。運営推進会議にも参加して一緒に考え協力関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日頃の様子は面会時に報告し、金銭管理は小遣い帳に記録し確認をもらっている。体調変化時は電話で随時連絡・報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に行事や誕生会への参加を呼びかけ、家族の面会時に話す機会を作ったりして、不満や要望を聞く機会を設けている。意見はサービスの質向上に活かすよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最小限にするため、採用面接で仕事内容等への理解を重視して採用し、利用者へのダメージに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に交代で参加したり、ホーム内の研修を実施し研鑽している。資格取得にも協力的で、職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との相互訪問や法人内のネットワーク作りで、サービスの質を向上させたいと考えている。	○	管理者や職員が同業者と交流する機会を持ち、勉強会や相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みの際は、訪問し本人や家族と面談したり、見学を勧め、馴染みの関係を作るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩としてケアを実践している。料理の作り方や色々な面で気づかされることがあり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、希望を聞いたり、言動やしぐさ・雰囲気などからその人の思いを把握し、困難な場合でも入居者の気持ちを察しながら検討するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意向を聴き、職員や主治医の意見や情報を反映した、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は入居後1ヶ月で見直し、その後は短期目標に応じて見直している。状態変化時は本人・家族と相談し、随時現状に即した計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じて、病院受診・通院介助の外出・外泊など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医の受診を支援している。症状に応じて、往診等適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応方針を、話し合う機会をもっていない。	○	利用者や家族が安心して過ごせるよう、重度化や終末期の対応について、事業所が対応できるケアの話し合いや方針を共有する事が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを傷つけないよう、言葉使いや対応に配慮してケアを行っている。また個人情報の保護にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、起床や食事時間など、その人のペースで過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者の食べたい物や買い物に同行したり、野菜の下ごしらえや下膳など力量に応じて一緒に行ない、楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望にそって、いつでも入浴できる。入浴拒否の入居者にも声かけのタイミングを工夫し、安心して入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえや片付け・お盆拭き・洗濯物たたみ等や、習字の得意な方に理念を書いてもらったりするなど、それぞれの役割をしている。花見やドライブなど、楽しみごとや気晴らしの支援も行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に配慮しながら広い敷地を散歩したり、近くのスーパーに出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を認識し、連携や声かけによる見守りを実践している。散歩時の挨拶などで地域の企業に入居者を理解し協力してもらえるよう心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜それぞれを想定して避難訓練を行っている。水など災害用の備品は準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量をチェックしている。利用者の状態に応じて、刻み食など対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと和室にソファや椅子が使いやすく配置され、明るく家庭的な雰囲気がある。ホールも広く、ゆっくりくつろげるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や洋服タンス・衣装ケース・椅子など使い慣れた家具を配置し、利用者が安心して、居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。